

総括評価表

重点課題 1

「学習指導の改善と確かな学力の向上」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 指導方法の工夫・改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力の向上を図る。  (下位組織レベル) ①基礎学力、受験学力の向上 ②家庭学習の習慣化と家庭との連携 ③教科指導力の向上と授業の質的転換	<b>評価指標</b> ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 70%以上 (70.0%目標→79.2%) ②1日の平均学習時間 1.0時間未満の生徒数 60人以下(60人目標→83人) 学年別進路保護者会出席率 55%以上 (55%目標→54.0%) ③生徒による授業についての評価 「理解が深まっている」生徒割合 85%以上 (85%目標→81%) 「興味・関心が高まっている」生徒80%以上 (80%目標→81%) ④図書貸出冊数一人 7.5冊以上 (7.5冊以上目標→3.07冊) 生徒一人あたりの入館回数 10回以上 (10回以上目標→6.16回) ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 85%以上 (85%目標→81.7%) 進路決定率 100%(100%目標→97.1%)	<b>評価指標による達成度</b> ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 74.2% ②1日の平均学習時間 1.0時間未満の生徒数 111人 学年別進路保護者会出席率 53.4% (3学年 90名、2学年 87名、1学年 71名) ③生徒による授業についての評価 「理解が深まっている」 82.6% 「興味・関心が高まっている」 73.4% ④図書貸出冊数一人 3.32冊 生徒一人あたりの入館回数 6.60回 ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 84.8% 進路決定率 98.7%	評定 B C B C B B	総合評価 評定 B B B B	総合評価(評定) B
	<b>活動計画</b> ①-1 課題解決への自主性確保(宿題との相違性)の効果的な実施(継続)  ①-2 補習や個別指導の効果的な実施と学習環境整備(継続)  ①-3 基礎的・基本的知識等の定着(継続)  ②-1 学習時間記録の効果的な活用(継続) ②-2 予習を前提とした授業展開の工夫(継続) ②-3 課題の効果的な提供(継続)  ②-4 学年別進路保護者会での効果的な情報提供(進路、学年間)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 各教科において個別指導の場を工夫し、生徒個々のニーズに応じた学びの提供と弱点の克服に資することができた。学習進度に応じてバランス良く計画的に週末課題等を与え、アフターケアとフィードバックを行った。自主性を高めるためにと声かけを控えたことで、週末課題プリントが余っている状況が見られた。家庭学習の習慣化と学習内容の確実な定着について、二極化が見られる。また、欠点保持者に対して個々に学ぶ手立てをきめ細かく指導できていた。 ①-2 早朝、放課後、長期休業中の補習については、可能な限り組織的・計画的に実施した。3年生については、週1日(金曜日)の放課後1時間の補習時間を確保した。また、各教科担任の協力により、8時間目に該当する時間を使つての特別講座も実施した。朝補習のほか、小論文、面接集団討論等の指導を組織的・計画的に実施した。さらに、創立100周年記念事業として整備された自主学習室の活用も定着し、主体的な学習が習慣化された。 ①-3 単元の途中などに適宜小テスト等を導入し形成的評価を行うとともに、年3回の課題テストを実施し、基礎・基本的内容についての理解度を把握した。 ②-1 毎日の「自主創造ノート」への記録や、「生活実態調査」を実施して学習状況を把握した。 ②-2 次時の授業内容に直結した「読む・調べる・書く」等の課題を与え、予習したことに価値がある授業を展開した。これに取り組ませることにより、新しい興味・関心や知識をもたせ、問題を解いたり議論をしたりと応用的な活動に取り組めた。 ②-3 各教科のバランスを取りながら取り組みやすい課題、時間がかかる課題等を織り交ぜて提供した。年度後半は週末課題プリントが余る様子が見受けられたが、進路室の教材に自主的に取り組む生徒数は昨年に引き続き増加した。 ②-4 進路保護者会は昨年度に引き続き外部施設を利用して開催した。進路指導主事、学年主任等が、生徒の学習状況(家庭も含む)、入試制度、保護者としての心構えと必要な準備等について、各学年に応じた説明及び依頼を行った。欠席者にも資料提供は行ったが、例年よりも参加者が少なかったことで、保護者への情報提供が十分でなかった点もあった。	<b>所見</b> 昨年よりも平均学習時間が減少した。テスト直前期でも家庭学習時間が1.0時間未満の生徒数は昨年よりも増加しており、生徒の意識変革と自立学習力の育成が課題である。全学年で読書量が減っており、今後、1年次からの進路講演会や学年集会等で読書による知の構築の推進を図る。進路に関する情報提供については、早期及び継続的に行っており、情報が錯綜する現状の中で、本年度は最新の入試動向等、生徒の進路実現に向けた多くのヒントを個別に提供することができた。進路講演会や進路保護者会、集会での講話などで学年ごとに具体的な課題提示ができ、受験に向けた学習への意識変革につながった。今後、さらに進路意識を高め、目標のぶれや安易な妥協を食い止めることを目指す。加えて、与えられた	<b>学校関係者の意見</b> 自主性の確保と適切な指導の両立は難しいと思うが、学力の向上には生徒の自主的な取組が必要であり、引き続き、きめ細やかな指導をお願いする。  家庭学習の習慣化、1日の平均学習時間の確保において格差が見られ、二極化しているという面が今後の課題ではあるが、概ね評価できる。させられる学習から自ら進める学習にするための手立てを考えて欲しい。	①「学びに向かう力」を育成するため、長期・短期の学習計画を見直しの上で、実行・自己評価・次計画の改善と、学習のPDCAサイクルを実践させる。  ②生徒向け進路講演での講師を再考するなどし、やる気を高める機会を増やす。また、今年度に引き続き、個別に校種別進学説明会などの情報を提示する。

<p>③-1 授業公開、研究授業の活性化(黠、黠)</p> <p>③-2 生徒による授業についての評価の工夫(黠、黠)</p> <p>③-3 カリキュラムマネジメントが機能している授業展開(黠)</p>	<p>③-1 教員相互の授業を参観する公開授業月間(5/29-6/30、11/2-30)を計画し、授業改善及び授業力向上研修を効果的に実施した。同じ教科以外に、教科を超えて授業を参観し、放課後等を利用して事後研修を行った。</p> <p>③-2 各教員がそれぞれの授業の中で、分かりやすさ、新しい知見の獲得、将来とのつながり、学ぶ面白さ、学力向上の実感を視点に授業についてのアンケートを実施し、改善につなげた。</p> <p>③-3 生徒の学びとそのプロセス、既習事項及び今後学ぶ単元との系統性を考慮した授業が展開できた。また、常に学習のねらいを意識し、これを生徒と共有できている。</p>	<p>③-1 「図書館だより」を毎月発行するなど広く啓発活動を行ったり、2階渡り廊下に展示コーナーを開設したりした。</p> <p>③-2 タブレットの導入もあるが、国語の授業やキャリア教育の調べ学習等で、図書館の積極的な利用を図った。また、進路指導室では、大学入試(小論文対策等)に限らず、知の構築を目指す魅力的な本を多数提供した。読解力の向上とともに自ら学び自ら考える力を育む機会となった。また、新たな興味分野発見の手がかりとなっている。</p>	<p>情報や提案を生徒自身が自分なりに解釈し結論を出す力の育成も目指す。</p>	<p>生徒の学力向上のため、授業内容への関心の高まりに繋げられるよう授業改善に向けた研修を継続して実施して欲しい。</p>	<p>③引き続き観点別学習状況評価を、学習内容への関心の高まりや学力向上に繋げられるよう授業改善に向けた研修を実施する。</p>
<p>④-1 魅力ある図書館づくり(黠・図書)</p> <p>④-2 学習と読書の関連性強化(黠・図書、全職員)</p>	<p>④-1 「図書館だより」を毎月発行するなど広く啓発活動を行ったり、2階渡り廊下に展示コーナーを開設したりした。</p> <p>④-2 タブレットの導入もあるが、国語の授業やキャリア教育の調べ学習等で、図書館の積極的な利用を図った。また、進路指導室では、大学入試(小論文対策等)に限らず、知の構築を目指す魅力的な本を多数提供した。読解力の向上とともに自ら学び自ら考える力を育む機会となった。また、新たな興味分野発見の手がかりとなっている。</p>	<p>④-1 「図書館だより」を毎月発行するなど広く啓発活動を行ったり、2階渡り廊下に展示コーナーを開設したりした。</p> <p>④-2 タブレットの導入もあるが、国語の授業やキャリア教育の調べ学習等で、図書館の積極的な利用を図った。また、進路指導室では、大学入試(小論文対策等)に限らず、知の構築を目指す魅力的な本を多数提供した。読解力の向上とともに自ら学び自ら考える力を育む機会となった。また、新たな興味分野発見の手がかりとなっている。</p>	<p>図書館について、「電子図書」の活用を検討してみてもどうか。図書貸出冊数の増加については、中学校でもなかなか難しい。「新しい本」を継続して用意して欲しい。</p>	<p>④生徒の希望や教員の推薦図書を検討しつつ、新規図書を選定するとともに、読書をしやすい環境作りを継続する。</p>	<p>④次年度より大学見学バスツアーを再企画し、志望校をより具体的に意識できる機会を増やす。</p>
<p>⑤-1 進路情報の収集と効果的な提供(黠)</p> <p>⑤-2 進路ガイダンス及び進路保護者会(説明会、講演会等)の充実(黠)</p> <p>⑤-3 就職希望生徒への指導の強化(黠)</p>	<p>⑤-1 受験後に提出した「受験報告書」(小論文、面接、感想等)、過去問(赤本・青本等)を整理し紹介した。進路選択が現実のものとなる3年生に対しては、大学及び予備校等から全国レベルの傾向等の情報を得るとともに、精度の高いデータを担任と共有し、きめ細かな進路指導を行った。出願対策、進路先決定に資することができた。</p> <p>⑤-2 12/15 1・2年生を対象に進路ガイダンス(一部大学はリモート参加)を実施した。本年度は1年生向けに分野別、2年生向けに大学別で実施し、学問内容や大学の特徴などを具体的に伝えた。自己実現に向けて必要な知識、情報を得るとともに意識改革が図られた。</p> <p>⑤-3 生徒本人や保護者の考えを十分に聞き、また個人的な相談に応じながら適切な進路先決定に努めた。履歴書、志望理由書作成を通して、社会生活上の基本的なマナーやコミュニケーション能力等、社会人・職業人としての基本的な能力を培った。</p>	<p>⑤-1 受験後に提出した「受験報告書」(小論文、面接、感想等)、過去問(赤本・青本等)を整理し紹介した。進路選択が現実のものとなる3年生に対しては、大学及び予備校等から全国レベルの傾向等の情報を得るとともに、精度の高いデータを担任と共有し、きめ細かな進路指導を行った。出願対策、進路先決定に資することができた。</p> <p>⑤-2 12/15 1・2年生を対象に進路ガイダンス(一部大学はリモート参加)を実施した。本年度は1年生向けに分野別、2年生向けに大学別で実施し、学問内容や大学の特徴などを具体的に伝えた。自己実現に向けて必要な知識、情報を得るとともに意識改革が図られた。</p> <p>⑤-3 生徒本人や保護者の考えを十分に聞き、また個人的な相談に応じながら適切な進路先決定に努めた。履歴書、志望理由書作成を通して、社会生活上の基本的なマナーやコミュニケーション能力等、社会人・職業人としての基本的な能力を培った。</p>	<p>大学のオープンスクールの積極的な参加を呼びかけてはどうか。</p>	<p>⑤次年度より大学見学バスツアーを再企画し、志望校をより具体的に意識できる機会を増やす。</p>	<p>⑤次年度より大学見学バスツアーを再企画し、志望校をより具体的に意識できる機会を増やす。</p>

\* 「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 2

「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」  
\* 「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者評価	今後の改善方策
<p>(全体レベル) 学校教育全体の中で、差別を見逃さない人権感覚と、自他を大切にすることを育み、人権尊重の精神の涵養を図る。</p> <p>(下位組織レベル) ①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり</p> <p>②人権学習、啓発活動の充実</p> <p>③教職員研修の充実</p> <p>④家庭や関係諸機関等との積極的な連携</p> <p>⑤特別支援教育の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>①人権学習ホームルーム活動満足度90%以上(90%以上目標→92%)</p> <p>②人権の日及び人権学習ホームルーム活動等で扱う個人人権課題 10課題以上(10課題以上目標→100%)</p> <p>③校内外研究大会・研修会(地域研修含む)参加率 全職員2回以上(1回以上→100%)</p> <p>④PTA役員会での研修会の案内チラシ配布とHPへ人権の日の資料や校内行事の掲載(新規)</p> <p>⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度 90%以上(90%以上目標→96%)</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①人権学習ホームルーム活動満足度 95.9%</p> <p>②人権学習ホームルーム活動では、3年生は同和問題(就職差別や結婚差別)、2年生はリフレーミング(普遍的な視点)・視覚障がい者・デートDV(子ども・犯罪被害者等)・アイヌの人びとについて学んだ。1年生ではインターネットによる人権問題・同和問題・災害時における人権問題を取り上げた。人権の日には、子どもの権利条約を紹介し、生徒たちからは在留外国人差別の現状・女性(就職差別)・男性(パタニティ・ハラスメント)・セクシュアルマイノリティ・ホームレスを取り巻く人権など、さまざまな課題が挙げられた。</p> <p>③職員朝礼時の研修だけでなく、学年研修や講演会など、すべての教員が2回以上研修に参加できた(100%)。しかし、事務職員や非常勤職員は、書面による研修が主となってしまったという課題がある。</p> <p>④PTA総会にて「生命(いのち)の安全教育」について資料を配付し説明した。今年度もHP掲載のための著作権問題を解決できず、課題を残した。</p> <p>⑤特別支援教育相談活動に関わる職員の満足度 96%</p>	<p>評価</p> <p>総合評価</p> <p>評定</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>総合評価(評定)</p> <p>A</p> <p>④HPについては、掲載可能なものから順次掲載を始める。</p>

活動計画	活動計画の実施状況	所見	学校関係者の意見	
<p>①-1 落ち着いて学習できる環境作りの促進(全額)</p> <p>①-2 生活実態調査の実施や個人面談等でいじめの実態の把握および対応(人権・生徒指導)</p> <p>②-1 個別人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(人権)</p> <p>②-2 人権教育講演会、人権問題意見発表会及び人権問題啓発映画会の実施(人権)</p> <p>②-3 生徒の主体的な啓発(交流)活動の企画・実施、成果等の発信(人権)</p>	<p>①-1 すべての教科及び人権学習において協働学習が取り入れられた。</p> <p>①-2 生活実態調査や先生方の観察、生徒からの申し出などから生徒が抱える悩みを丁寧に聞き取りをし、声かけを行った。</p> <p>②-1 1年生では中学校までに学習してきたことと結びつけて同和問題について学習した。3年生では就職差別・結婚差別とも、同和問題だけでなくさまざまな視点から差別を見抜く視点を学習した。</p> <p>②-2 人権教育講演会(6/12「1人1台端末時代のかしこい使い方」富田幸子氏)、人権問題意見発表会(10/3「スポーツとジェンダー」「バリアフリー」「訴え続けることの大切さ(戦争体験を聞いて)」「ヘイトスピーチについて(「全国在日外国人生徒交流会」参加者による)」「よりよい世界にするために(SNSやインターネット上の誹謗中傷)」、人権問題啓発映画会(3/13実施予定「心の傷を癒やす」ということ)を実施(予定を含む)した。</p> <p>②-3 じんけん部員や障がい者が抱える問題に興味のある生徒が「中・高生による人権交流集会」に参加し、学んだことを総合的な探究の時間での学習につなげている。また、アエルワと阿波高校で行われた「全国在日外国人生徒交流会」にじんけん部員が参加し、外国にルーツを持つ生徒の悩みを聞き、自分たちにできることを考え、彼らとともに「全国在日外国人教育研究集会・徳島大会」でグループ発表した。さらに「世代を超えて開かれつながる社会教育推進事業(SeDaTuNa(せだつな))」に参加した生徒は地域のバリアフリーについて考え、「車いすまちあるき」を企画・実施し、今後その成果報告会を行う予定である。</p>	<p>多忙化により研修(知識のアップデート)の機会をいかに確保するかが一番の課題である。先生方に配付したりメールでURLを送り動画を見ていただいたりなどの工夫が今年にはできた。新聞記事の内容をプリントにする場合は、要約したりURLを載せたりすることで来年度こそはHPに掲載したい。</p> <p>人権学習は他教科の学習ともつながっていることを実感できた生徒が多くいたのではないかとと思われる。また、教員も人権学習HR活動の指導案作成を通して、他教科との関連や個別人権課題どうしのつながりを感じ取ったようだ。</p> <p>特別支援や教育相談については、スクールカウンセラーの配置により、生徒・保護者・職員の相談・解決がスムーズに行われた。校内はもちろん、関係機関との連携を一層高めていきたい。</p>	<p>人権学習満足度95.9%はすごいと感じる。普段の生活や授業、全ての活動が基盤となっていると思う。生徒達の「あいさつ」も素晴らしいと思う。様々な差別や人権問題は実在しており、多様性を尊重した人権教育が求められる中、個別人権課題を10課題以上取り上げて学習されたことは素晴らしい取り組みだと感じた。</p> <p>人権教育の取組において、中・高生による人権交流集会等の活動を見ても人権教育主事の先生の指導もあると考えられるが、積極的に参加し、素晴らしいリーダーが育っていると感じている。</p>	<p>①継続して実施していく。</p> <p>②「中・高生による人権交流集会」に向けての生徒部会やスタッフ会議に参加したいと思う生徒を増やしたい。</p>
<p>③-1 指導方法の工夫・改善を図る研修会の実施(人権)</p> <p>③-2 各種研究大会、講演会への積極的な参加と報告(人権)</p> <p>③-3 生徒と学ぶ研修会の実施(人権)</p> <p>③-4 地域との連携(人権)</p>	<p>③-1 学年別研修会および先行授業研究を行い、活発な意見交換ができた。</p> <p>③-2 オンラインも含め、実施された各種研究大会や講演会には、複数の教員が参加した。四国地区人権教育研究大会では、本校人権教育主事が報告を行った。</p> <p>③-3 2年生がアイヌについての人権学習をしたときには、教員もともに学ぶことができた。</p> <p>③-4 転入職員研修にて柿原ふれあい会館で、地域の歴史についてお話を伺い、案内神社周辺のフィールドワークに参加した。</p>		<p>教職員研修も様々な工夫を凝らしながらよく実施できている。いじめは分らないところで見られている場合もあるので、先生の姿勢が大切であり、いじめを許さず、生徒全員が元気に登校できるように取り組んで欲しい。</p> <p>多種多様化する課題に対し、先生と生徒、学校全体で人権感覚を育むため、色々な学習を取り入れ、多くの人権研修に参加された事は素晴らしい。</p>	<p>③教員の知識のアップデートが必要で授業と、「生徒とともに学ぶ」というスタンスの授業の両面から研修会を考えたい。</p>
<p>④-1 保護者への啓発活動の実施(人権)</p> <p>④-2 地域との連携(人権)</p>	<p>④-1 人権教育講演会と人権問題啓発映画会には保護者案内を出し、講演会には3名、映画会には 名の保護者の方に来ていただいた。</p> <p>④-2 柿原ふれあい会館祭にじんけん部員5人が参加した。</p>		<p>保護者への啓発も継続して様々な方法で取り組んで欲しい。</p>	<p>④事前の案内だけでなく、PTA総会の際に年間の人権に関する行事を伝える。</p>
<p>⑤-1 特別支援体制の確立(教育相談)</p> <p>⑤-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネート(教育相談)</p> <p>⑤-3 教職員の生徒理解、支援能力の向上(教育相談)</p>	<p>⑤-1 担任、学年、保健室、教育相談担当が得た情報を共有し、必要に応じて関係者会を開くなど、支援体制の確立に努めた。</p> <p>⑤-2 年間90時間来校するスクールカウンセラーの相談活動を周知するとともに、ライフサポーター派遣やLINE相談、電話相談、大学の相談室の案内を行った。</p> <p>⑤-3 職員研修会を開催し、教員が対応に悩んだ事例を元に、本校スクールカウンセラー 藤田知香氏より、効果的な支援方法について学んだ。</p>		<p>情報の共有を今後も継続して欲しい。</p>	<p>⑤校内での事例の共有を来年度も継続したい。</p>

\* 「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 3

「自己実現と社会貢献意識を高めるキャリア教育の推進」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル)  自己の価値観を形成させながら進むべき道を描けるようにさせるとともに、地域社会に貢献しようとする意欲を高める。  (下位組織レベル) ①「キャリア・パスポート」を核としたキャリア教育のプログラムの充実  ②地元自治体や企業と連携した「地域探究活動」の推進  ③主権者意識を高める教育の推進	<b>評価指標</b> ①スクール・ポリシーを基にした、キャリア教育における基礎的・汎用的能力に関する4つの能力について、肯定的回答が70%以上	<b>評価指標による達成度</b> ①・自主的に調べ物や取材を行い、興味・関心のあるものを見つけることができた。・・・66.9% ・自分が設定した目標に対して、計画を立てて行動することができた。・・・51.4% ・自分とは異なる意見や価値を尊重することができた。・・・91.1% ・自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っている。・・・75.6%	① B ② A ③ A	総合評価 (評定)  A	①生徒が自らの成長を実感できる活動を展開し、それを振り返る中で自らの進路意識を醸成する機会を創出する。  ②探究活動の連携先を拡充し、「解決策」を実践する場の拡充と外部評価を促進する。
	②社会的課題に主体的に向き合い、社会に貢献しようとする意欲について、肯定的回答が70%以上	②「総合的な探究の時間」等のキャリア教育に意欲的に取り組むことができた。・・・82.7%	A		
	③主権者教育に関する活動をとおして、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が90%以上(90%以上→90%)	③政治への関心が高まった生徒は96.6%で目標を達成することができた。	A		
<b>活動計画</b> ①-1 「キャリア・パスポート」に関する内容の授業時間を年間6時間とする(AWA未来創造) ①-2 大学や企業との連携をはかり、アカデミックインターンシップを実施する(総探)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」に設定し、予定どおり実施した。 ①-2 従来より参加している徳島県立総合教育センター主催「科学への誘い」を始め、県内外の大学が主催する講義やワークショップ等への参加を積極的に促した。また、校内においても、地域づくりに長年携わり、本校学校運営協議会委員を務められる井原まゆみ様や妹尾裕介様、徳島大学総合科学部教授である依岡隆児様、環境ライターの佐藤由美様などをお願いして、キャリア教育講演会を実施し、学びへの意欲を高めることができた。	<b>所見</b> 2年生の「総合的な探究の時間」では、一昨年度より引き続き阿波市や上板町との連携を図り、また今年度からは法人や地域の活動家の方とも連携を図りながら取り組んだ。その結果、地域の課題を認識し、その解決に向かう姿勢とともに、解決策を実践しようとする力の高まりが例年より一層顕著であった。主権者教育を、積極的にを行うことで、地域社会の一員であるとの自覚も高まった。	<b>学校関係者の意見</b> 「総合的な探究の時間」の取組は素晴らしいと思う。12月に発表を聞いて、地域社会への関わりを積極的に進めているのは良い。生徒の温度差はあると思うが、社会と繋がる機会を今後もしっかりと継続できればよいと思う。「総合的な探究の時間」では、地元自治体に加えて、地域づくり団体や企業とのコラボなど、課題解決に向けた実践力が一層向上することができたことは特筆できる。  主権者教育による政治や選挙に対する意識の高揚、地域との連携など非常に評価できる。	①-1 継続して実施する。 ①-2 継続して実施する。  ②研究テーマの継続研究に取り組むとともに、理論と実践との往還について、さらに意識した指導を実施する。  ③-1 継続して実施する。 ③-2、3 各課・各教科との連携を更に深化させる。	
② 地元自治体や企業、NPOとの連携を推進し、課題研究の取組の発展をはかる(総探)	②「総合的な探究の時間」において、阿波市や上板町の小学校で校外研修を行い、さらに、阿波市役所の職員による講義を学校で実施するなど、阿波市と上板町との連携を推進し、課題研究の取組の発展を図ることができた。また、NPO法人あわ・みらい創生社、大塚製薬、ローソン等の(地元)法人のご指導の下で、地域課題探究活動の実践性の大幅な伸長を図ることができた。	② A			
③-1 主権者教育教職員研修会の実施(公民科) ③-2 主権者教育に関する学校行事やホームルーム活動を年間8回実施(公民科) ③-3 全体計画を作成し、その実施において教科、領域間の連携をはかる(全教員)	③-1 4/7予定通り実施した。 ③-2 2年生全員を対象に12/15選挙スクールを実施した。また、2年生の「総合的な探究の時間」では、主権者として地域の課題について考える取り組みを年間を通して8回以上実施した。 ③-3 全体計画を作成することで、主権者教育における学校全体の目標の明確化と教職員間における目標・計画の共通理解を行い、公民科や他教科、「総合的な探究の時間」等との連携をはかることができた。	③ A			

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 4

「基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成」  
\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 生徒理解の深化と信頼関係を基盤に、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。安全・安心な学校生活と、違いを認め合える人間関係づくりを推進する。また、よりよい校風を築いていくために、学校のために何ができるかを考えさせる。	①遅刻者数(日平均)2.5人以下(2.5人以下→2.9人) 過失割合の高い交通事故発生件数 3件以下(5件以下→2件) 自転車安全カード(警告書)交付数 0人(0人→1人) 特別に配慮し指導した生徒数 1%未満(1%未満→0.8%) 交通安全意識の高揚度 95%以上(95%以上→97%)	①遅刻者数(日平均)2.3人 過失割合の高い交通事故発生件数 2件 自転車安全カード(警告書)交付数 2人 特別に配慮し指導した生徒数 0.2% 交通安全意識の高揚度 98%以上	B	B	B	③生活実態調査の項目を変更し現状を把握する。
	②教育相談週間実施数 3回以上(3目標→3) ③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施 1回(1回→1回) 生活実態調査いじめに関する項目 1%未満(1%未満→0.2%) 自分から挨拶ができていない割合 90%以上(90%以上→89%)	②教育相談週間実施数 3回 ③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施 1回 生活実態調査いじめに関する項目 0% 自分から挨拶ができていない割合 91%	A	B		
(下位組織レベル) ①社会的な自立に向けて、基本的な生活習慣の確立や、規範意識の向上を目指した教育を推進する。 ②教育相談体制の充実を図り、すべての生徒が安心して学校生活を送れる学校作りを推進する。 ③「学校いじめ基本方針」の点検・見直しを図り、組織的にいじめの未然防止に努める。	①-1 生徒指導全校集会の実施(指) ①-2 改善週間の実施と改善指導の徹底(指) ①-3 登下校指導や街頭指導の実施(指) ①-4 自転車・バイク点検の実施と講習会の実施(指) ①-5 警察・補導センター等関係諸機関との連携(指)	①-1 年8回リモートで生徒指導主事の講話を行い、自己指導能力の育成に努めた。 ①-2 各学期に1回、年間3回実施した。 ①-3 毎月20日の学校安全の日登校時に街頭指導を行った。交差点14か所(11月より7か所)に教員が立ち、自転車、バイクの安全、マナー等の指導を行った。また、日直が校門に立ち登校マナー、挨拶、身だしなみ等の指導を行った。下校時には教頭、生徒指導主事等がバイクの出入り口に立ち一時停止、左右確認等の指導や学校周辺の巡視を行った。 ①-4 4月に生徒指導課でバイク、正副担任で自転車の点検およびステッカーの確認を行った。1学期末に第1・2学年を対象に交通安全講話を実施した。また、阿北自動車教習所で第2学年を対象に原付安全実技講習会を実施した。ブレーキング、バランス走行を行い、指導助言を受けた。また交差点事故の実技検証を実施し個々のケースに学んだ。 ①-5 生指協等を通して阿波吉野川警察署、補導センターと定期的に情報交換し、内容を職員朝礼等で職員に連絡した。また問題行動の対応についても連携を図り、助言を指導へ生かした。		所見 予防的な指導がこれから大切となってくる。自分の可能性を信じ、自分自身を高めていくスキルを身につけさせたい。しかし、自ら課題を見つけ、問題解決のスキルを身につけるには、生徒それぞれが理想を描いたり、自分なりの美学を持ったりする必要がある。安全な環境を整え、自分自身とじっくり向き合う時間をつくり、一人ひとりの自主創造につなげたい。 教科担任や養護教諭等からの情報が、生徒の状況を把握することに役立った。生徒の不安や悩みにいち早く気付くことができ、学年等で情報共有することができた。また、カウンセラーの活用が、問題の早期解決につながった。	学校関係者の意見 努力義務化されたヘルメットの着用なども視野に入れた交通安全等の指導に引き続き努めて欲しい。 自転車用ヘルメットの着用義務化が始まったので、着用率向上のため、啓発をして欲しい。	①-1生徒指導だよりを発行するなど、講話の質を上げる。 ①-2生活改善週間のテーマを決めて意識の高揚を図る。 ①-3実施箇所を7か所で展開する。 ①-4継続実施 ①-5学期に一回は関係機関を訪問し連携を強化する。
	②-1 保健室相談機能の有効活用(教育相談、養教) ②-2 情報の共有化と支援プランづくり(教育相談) ②-3 専門家による研修会の実施(教育相談) ②-4教育相談週間の設定(教育相談) ②-5スクールカウンセラーの派遣(教育相談)	②-1 養護教諭が生徒の悩み等を聴き、本人が希望する支援につなぐことができるように、担任や学年、保護者との連携を生かした。 ②-2 「支援を要する生徒」について、必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行い、支援の方向性を検討した。 ②-3 12/11 教育相談職員研修会を開催し、教員が対応に悩んだ事例を元に、本校スクールカウンセラー 藤田知香氏から効果的な支援方法について学んだ。また、3/13 映画「心の傷を癒すということ」鑑賞による研修を実施予定である。 ②-4 年間3回(4/12-18、9/14-22、1/10-19)教育相談週間を設定した。 ②-5 徳島県スクールカウンセラー等活用事業の配置により、スクールカウンセラーが年間90時間来校した。心理的な要因等により登校できない生徒や不安を抱える生徒、保護者へのカウンセリング、支援方法についての指導助言を得た。スクールカウンセラーによる相談活動について、保護者宛に案内文書を配付した。			スクールカウンセラーのほか、利用可能な外部関係機関も周知し、生徒が声をあげやすい環境を整えて欲しい。	②-1継続して実施する。 ②-2継続して実施する。 ②-3専門家による研修の機会を確保する。 ②-4継続して実施する。 ②-5継続して実施する。
③-1 教職員の共通理解(指) ③-2 いじめに関する教職員研修の実施(指) ③-3 学期別2者面談の実施(指)	③-1 学年会において、頭髪・服装指導等について共通理解と情報共有を行った。また、問題行動発生時に生徒指導課と該当学年団が連携して動くとともに適宜職員会議を開催し、全教職員で対応した。 ③-2 生徒指導関連の研修内容を報告したり、職員会議で校則見直しについて研修したり、全教職員で研修に努めた。 ③-3 ②-4教育相談週間の項目に同じ。			自分から挨拶ができていない割合が91%は素晴らしい。重点課題2にも繋がる。いじめに関する項目が0%は、推進法の定義からすると検証が必要かもしれない。		

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 5

「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価				学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価			
	評価指標	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 諸活動の活性化を図るとともに、豊かな人間性を育み、主体的に取り組む意欲と実践力を高めるための機会の確保に努める。	①生徒のHR活動満足度 85% (83%目標→83%) 生徒の学校行事満足度 85% (84%目標→84%) 新企画数 3以上 (3目標→3)	①生徒のHR活動満足度 85.1%  生徒の学校行事満足度 91.4%  新企画数 3	評定  A	A	A	①HR活動の新しい取り組みを考える。  ②部活動の広報活動を改善・工夫する。 ③生徒が主体的に取り組む学校祭とする。
	②部活動加入率 85%以上 (87%目標→83%)	②部活動加入率 73%	B			
	③文化祭肯定評価 85%以上 (92%目標→81%)	③文化祭肯定評価 92.3%	A			
(下位組織レベル) ①生徒会の活性化 ②部活動の充実・活性化  ③学校行事(学校祭等)の活性化	活動計画 ①-1 生徒による新しい活動の企画・運営(特活) ①-2 学校行事への主体的な参画(特活) ①-3 社会貢献活動への企画・実施及び参加(特活)  ②-1 顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり(部活動顧問) ②-2 部活動顧問会議の開催と意見交換(部活動顧問) ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底(部活動顧問) ②-4 部活動のスリム化(特活) ②-5 活動及び結果等の広報活動(部活動顧問)  ③ 生徒の主体的な活動支援(特活)	活動計画の実施状況 ①-1 学校祭・体育祭、球技大会、予餞会で新しい企画を実施した。 ①-2 生徒会、部活動、各種専門委員会が学校祭・球技大会・予餞会の計画・準備・運営を行い主体的な役割を担った。 ①-3 校外での様々なボランティア活動に多くの生徒が参加した。  ②-1 生徒の主体性を重視し、保護者の協力のもと活動した。  ③-2 4月と12月に部活動顧問会議、7月と1月に部活動適正推進委員会を開催し、体罰禁止、熱中症対策、感染症対策の徹底を確認し、活動上の問題点等の情報交換をした。 ②-4 スリム化のため合併した部を単一の活動内容に変更を検討した。 ②-5 中学生体験入学での部活動体験や見学で活動紹介を行い、ホームページに大会結果や活動状況を掲載した。  ③ 生徒会や専門委員会において、生徒からの企画発案を促した。特に生徒の自主性を重んじ寄り添う形でサポートした校則検討委員会の活動は大きな実りをもたらした。	所見 コロナによる活動制限もほぼなくなり、校内行事も全て本来の形で実施予定でスタートしたが、全生徒が初めてであり、結果、様々な場面で新しい企画、取り組みになった。100周年という節目を迎えたこともあり、新たな特別活動の実施の仕方を、生徒たちとこれから作り上げていきたいと思う。	学校関係者の意見 コロナで制限されていた学校行事も本来の姿を取り戻し、学校全体が活気に満ちた1年であったと思う。今後も楽しい催しなどを企画し、豊かな人間形成を育んでいきたい。創立100周年記念式典も盛大にできて良かった。 高校生の「主体性」を重視し、どこまで活動できるのかを知りたい。  「ブラック校則」という言葉がマスコミでもよく取り上げられているが、時代に合った校則になるよう、自主的な「生徒会活動」のバックアップをして欲しい。	①-1 継続して実施する。 ①-2 継続して実施する。 ①-3 継続して実施する。  ②-1 継続して実施する。 ②-2 継続して実施する。 ②-3 継続して実施する。 ②-4 継続して実施する。 ②-5 継続して実施する。  ③ 「校則の改定や廃止等の手続き」を「生徒心得」に明記し、生徒が学校生活についてより主体的に考えられるようにする。	

\* 「評定」の基準 | A:十分達成できた | B:概ね達成できた | C:あまり達成できなかった | D:全く達成できなかった



重点課題 6

「環境教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進」  
\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 校内外の環境美化と、さまざまな課題解決学習を推進し、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に寄与する実践力の育成を図る。 (下位組織レベル) ①衛生・美化意識の高揚 ②環境教育・消費者教育の推進 ③防災教育の充実 ④健康意識の高揚と啓発活動の充実 ⑤食育の推進	評価指標 ①清掃活動への積極的な取り組み 90%以上(90%以上目標→教職員による評価87% 生徒による自己評価90.3%) ②地域清掃活動の各回参加者数 160人以上(150人目標→平均186名) ③生徒の防災意識度 75%以上(75%目標→69.3%) ④生徒の朝食摂取率 93%以上(93%目標→90.2%) ⑤生徒の野菜摂取率 80%以上(80%目標→81.6%)	評価指標による達成度 ①清掃活動への生徒の積極的な取り組み 教職員による評価 89.3% 生徒による自己評価 93.4% ②地域清掃活動の各回参加者数 平均195名(4回実施時点) ③生徒の防災意識度 69.6% ④生徒の朝食摂取率 90.7% ⑤生徒の野菜摂取率 84.0%	評定 B A B B A	総合評価 B	総合評価(評定) B
	活動計画 ①-1 日常の清掃活動の徹底(競・駐) ①-2 教室等のゴミ分別の徹底(競・駐) ①-3 一斉大掃除の計画的実施(競・駐) ②-1 地域清掃活動の充実による環境ISOの推進(競・駐) ②-2 教科間の連携による消費者教育(競・駐) ③-1 学校防災計画の作成と職員への周知(競・駐) ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施(競・駐) ④-1 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施(競・駐) ④-2 「保健だより」の効果的な活用(競・駐) ④-3 厚生委員会活動の活性化(競・駐) ④-4 保護者や関係機関との連携(競・駐) ④-5 学校保健委員会の充実と結果の活用(競・駐) ⑤食育全体計画の組織的な実施(競・駐)	活動計画の実施状況 ①-1 清掃活動への積極的な取り組みを目指して、2か月ごとに清掃目標を決め、美化委員からクラスに周知した。 ①-2 美化委員が毎日、教室のゴミの分別状況を確認して表に記入し、分別を呼び掛けた。環境委員が月末にペットボトルのキャップを回収し、地域の事業所の協力を得てワクチンの購入活動につなげた。資源ゴミとして古紙と段ボールを集めて業者に回収してもらい、交換した再生紙トイレットペーパーを校内で使用している。 ①-3 学期末や学校行事の前の大掃除では、時間を有効に活用し、窓拭きやゴミ箱洗いなどにも熱心に取り組んだ。 ②-1 5/31、6/23、10/6、12/13に地域の清掃活動を実施した。美化委員、環境委員の他、個人または部活動単位で多くの生徒が参加した。校内の草取りや落ち葉の清掃も実施し、ゴミの分別活動も行った。 ②-2 公民科を中心に、消費者教育を実施した。7/18には3年生を対象に、とくしま「消費者教育人材バンク」の弁護士美馬和仁氏による講演「成年年齢引き下げと契約」を実施した。生徒は、消費者の自立と責任について学んだ。エシカル消費教育では、学校祭で「花嫁菓子」を販売し、地域の食文化について知る機会をもった。また、創立百周年の記念品として、学校林の檜を使ってコースターを作り、生徒も家庭で利用している。2年生は、家庭基礎の授業でアクリル毛糸を使ってエコたわしを作成し、環境保護の意識を高めている。 ③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 5/2の防災全校集会では、防災士資格を持つ生徒が地域防災の拠点としての学校の役割等についてプレゼンし、防災クイズを通して災害発生時の対応について学んだ。7/12の防災HRでは、避難場所カード・緊急避難時生徒引き渡しカードを記入し、防災に関するビデオ学習をした。 ④-1 5/19 徳島中央広域連合中消防署から講師を招聘し、職員を対象に、心肺蘇生法(AED)・エビペン講習会を実施した。 ④-2 保健だよりを教室に掲示する際、HRで厚生委員が内容説明を行った。毎月の保健だよりはホームページにも掲載し、夏休み号は三者面談で全員に配付した。3学期には、近隣5高校と連携して「保健だよりでつなぐ環境衛生活動に関する啓発活動」を実施した。 ④-3 吉野川保健所と連携し、阿波高祭保健展を開催し、厚生委員が考えた歯科保健標語の展示等を行った。また、健康診断の補助、体育祭の救護活動、加湿器の清掃、教室の二酸化炭素濃度を記録する活動に取り組み、健康管理や適切な教室環境の維持に対する意識の向上に努めた。 ④-4 12/14 吉野川保健所 健康増進担当主任 岩城真理氏と、AWAがん対策基金理事 宮本良之氏を招聘し、1年生を対象に「がんを予防する生活習慣」と題した講演と、がん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-5 12/6 学校保健委員会を開催した。学校医3名、学校歯科医2名、学校薬剤師1名、PTA家庭教育研修部4名の参加を得て、生徒の健康保持増進のための取組について協議した。生活習慣改善や健康診断の事後措置、感染症対策について指導助言を得た。 ⑤ 学校全体で食育が推進できるよう、食育全体計画を作成した。学校祭では、3年生がクラスごとに食品バザーを実施し、多くの来校者に食品を提供し、食を通じて人とつながる大切さを学んだ。また、ISO掲示板に、フードロス問題に関する資料を掲示し、考える機会を持った。	所見 清掃活動に対する意識が、昨年度より向上している。今後、教職員と生徒が一緒に工夫しながら、伝統ある校舎の清掃美化に取り組んでいく必要がある。地域と連携した防災教育・活動を進めていく。教職員が正しい心肺蘇生法やAED、エビペン注射の使用方法を理解し、適切な対応能力を身に付けることができた。生徒厚生委員は、自らの性にも、委員としての役割が果たすという責任感が育った。生徒が健康な生活や、引き続いた学習に関する指導や、消費教育を推進していく必要がある。	学校関係者の意見 校舎内外の清掃が行き届いており、気持ちが良い。環境に関わる教育も、様々な活動を通じて意識付けして行われている。 美化の取組は、本当に大切だと思っている。環境を整えることは全ての活動に影響する。教員の意識、生徒の意識を高めているか知りたい。 元日の「能登半島地震」をはじめ、近年、大規模災害が頻繁に起こっている。避難訓練に力を入れて欲しい。 地元企業や役所と連携した活動や地域の清掃活動を行うことにより、衛生・美化意識の高揚が図られており、食育・防災教育の推進などと併せて、継続してもらいたい。 食育については、家庭での取組が重要であると感じており、保護者に対する啓発を行ってはどうか。	①-1 継続して実施する。 ①-2 ペットボトルキャップ回収の意義を周知し、積極的な取り組みにつなげる。 ①-3 清掃用具の整備と補充に努め、継続して実施する。 ②-1 時期と方法を検討しながら継続して実施する。 ②-2 「総合的な探究の時間」の学習内容と連動しながら継続して実施する。 ③-1 継続して実施する。 ③-2 地域の避難所としての意識を高め、近隣の小学校等と連携した防災訓練の実施。 ④-1 継続して実施する。 ④-2 継続して実施する。 ④-3 厚生委員を中心に学校全体の健康意識向上につながる取組の強化。 ④-4 継続して実施する。 ④-5 学校三師と連携した健康教育を実施する。 ①-1 食事と健康に関する資料を提示し、家庭での話し合いにつなげる。

\*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 7

「開かれた学校づくりの推進」

\* 「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	
(全体レベル) 積極的に情報発信を行うと共に地域と密接に連携を図りながら魅力的な学校づくりを推進する。  (下位組織レベル)	<b>評価指標</b> ①阿波高校への満足度 90%以上 (90%以上→生徒80%、保護者88%) ②本校Webサイト更新回数 年間70回以上 (年間50回以上→78回) ③学校説明等訪問中学校 10校以上 (10校以上目標→10校)	<b>評価指標による達成度</b> ①阿波高校に入学して(させて)良かったと「思う」、「やや思う」の合計 生徒: 82.9% 保護者: 91.7% ②本校Webサイト更新回数 年間91回(1月末現在) ③学校説明等訪問中学校 10校	評定 B A B	総合評価 評定 B	総合評価(評定) B
	<b>活動計画</b> ①-1 学校教育活動全般及び部活動の充実(類) ①-2 学校運営協議会による魅力化の推進(類)  ② 本校Webサイトの充実(情報・図書課)  ③-1 中学校での学校説明会の実施(教務課) ③-2 学校公開(授業等)の実施(教務課)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 コロナ禍での行動制限が緩和されて感染者数が急増する時期もあったが、感染対策をとりながら通常の教育活動を実施し、学校祭や創立100周年記念式典、オンラインによる全校集会など各種行事が実施できた。また、部活動においても、各々が工夫を凝らして充実した活動を行えた。 ①-2 学校運営協議会を設置し、学校経営方針等について承認を得るとともに、「総合的な探究の時間」や地域との連携など、学校の魅力化についての協議を行った。特に今年度は学校運営協議会委員の方に核となっていただき、地元と連携した探究活動の一層の推進ができた。  ②毎月発行の保健だよりや部活動の大会記録、校則検討委員会の活動内容等を修学旅行等の学校行事に加え、四国インターハイ関係も掲載し、目標を達成できた。しかし、部活動では部によって更新回数に偏りがあり、今後の課題である。  ③-1 依頼のあった10中学校の進学説明会等に校長と教務主任が出向き、本校教育の概要等を説明した。また、中学校への個別訪問を実施し、中学校長に本校教育の概要等を説明した。 ③-2 中学校体験入学を実施し、授業体験および部活動体験を実施した。	<b>所見</b> 学校評価アンケートの「阿波高校に入学して(させて)良かったと思いますか。」の問いに対して、目標には届かなかったが、生徒、保護者共に肯定的な回答が80%以上あり、本校の取組にほぼ満足しているものと考えている。アンケートの自由記述では、トイレの環境整備に関する要望が多かった。(南館トイレについては次年度改修予定である。)	<b>学校関係者の意見</b> 「安心」をどう保障していくかだと思ふ。阿波高校に入学して(させて)良かったと「思う」、「やや思う」の合計が、保護者91.7%という数字が成果として表れている。これからも魅力的な学校づくり推進のため積極的な情報発信を行い、トイレの環境整備については、粘り強く要望を続けて欲しい。 学校ホームページも頻りに更新できている。特に部活動等の成績もわかりやすい。  学区制見直しの議論がスタートするという報道があり、学校ごとに比較されることも想定し、Webサイトを中心として、学校の魅力を積極的に広報してもらいたい。	①-2 地元地域や自治体と連携し、校外活動の機会をより組織的に積極的に推進していく。併せて魅力的な学校づくり推進のため積極的な情報発信を行っていく。  ②学校ホームページ、さくら連絡網等様々なツールで更に情報提供していく。  ③-1 近隣中学校への訪問を継続して実施する。 ③-2 中学生体験入学における学校説明の内容を充実させる。

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった